

(92)

留学生に対する「日本文化・日本事情」の授業設計 —CLIL（内容言語統合型学習）の視点から考える—

元 木 佳 江

1 はじめに

四国大学短期大学部では外国人留学生3年コースを設け、1年目は専門教育につなげるために日本語教育を中心としたカリキュラムが組まれている。1年次開講科目の一つに「日本文化・日本事情」が設けられており、知識を得ると同時に日本語力を高める工夫を行っている。本稿では、この「日本文化・日本事情」の授業実践について、内容言語統合型学習（以下、CLIL = Content and Language Integrated Learning）の方法論を軸に報告を行う。

2 CLIL とは

2. 1 CLIL の 4 つの概念

CLIL（クリル）とは、Content and Language Integrated Learning の頭文字を並べたもので、日本語では言語内容統合型学習と訳されている。CLIL は、1990 年代半ば、ヨーロッパ (EU) で言語政策の推進手段の一つとして生まれた。欧州評議会の唱える複言語主義の下、ヨーロッパの市民形成の必要性とともに発展してきた教育法で、「特定の内容（教科やテーマ、トピック）を、目標言語を通して学ぶことにより、内容と言語の両方を身につけていくという教育法」（奥野他 2018、p.2）である。CLIL は複言語・複文化主義に基づく教育観のもと、言語を通して平和な社会の実現に必要な汎用能力を育成する^{（注1）}ことを目的とした「内容と言語の組み合わせ」による語学学習法である。

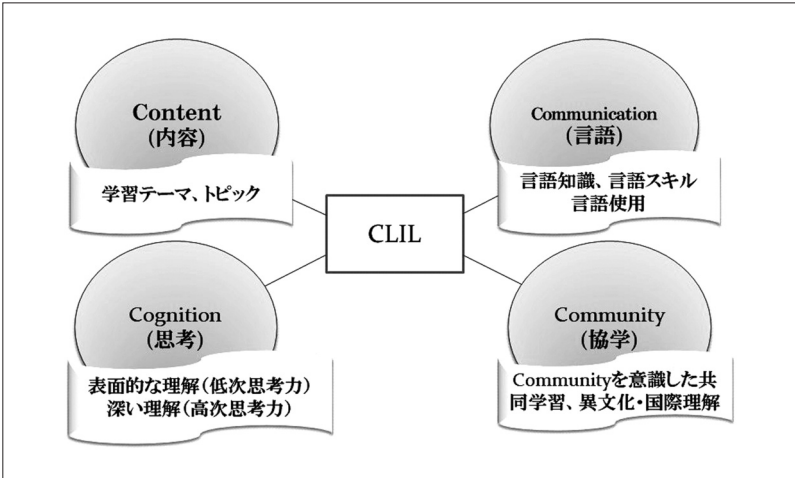
図1は、CLIL の特徴である4つの概念（以下、「4C」）について表したものである。

Content（内容）は教科書の学習テーマやトピックのことで、ただ内容を理解するというのではなく、「わかる」から「できる」知識^{（注2）}を意識して学習することが重要である。Communication（言語）は、内容理解を深めるために必須の語彙や表現を概念とともに学習することが大切で、知識や技能の言語学習と学習を通じた言語使用を有機的に組み合わせることにより言語習得が促進される。

Cognition「思考」は4Cの中で最も重要視される概念で、学習者が低次思考力 LOTS（Lower-Order Thinking Skills）から高次思考力 HOTS（High-Order Thinking Skills）へと思考のピラミッドを上っていくために、教師による適切なスキファールディングが求めら

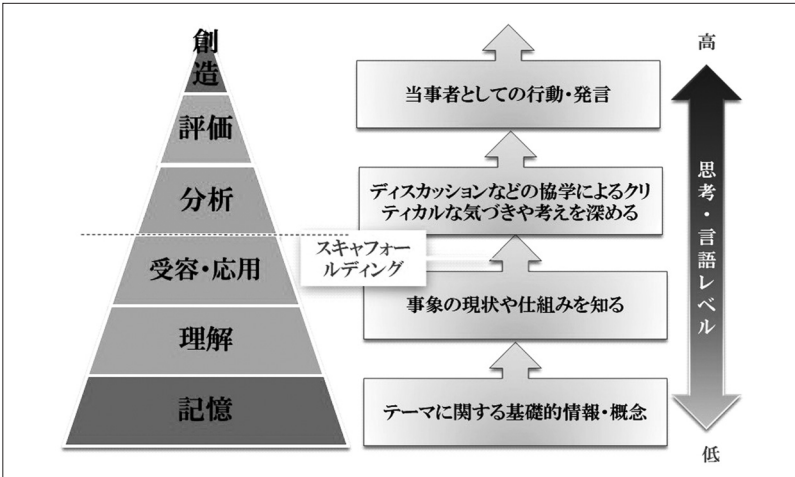
れる（図2）。Community（協学）は、ペアワークやグループワークを通して協働学習や異文化・国際理解を促すものである。この4Cのフレームワークに沿って授業設計や教材作成を行い、統合していくところにCLILの実用性がある

図1 CLILの「4C」



（渡部・池田・和泉(2011)p.5をもとに筆者作成）

図2 CLILの思想のピラミッドと活動例



（奥野他(2018)p.14をもとに筆者作成）

CLIL の方法論は外国語としての学習を意識したものとして^(注3) が、奥野他 (2018) は第二言語習得の視点から見ても CLIL の教育法は理論的に合致しており、その教育観と実用性から日本語教育で CLIL を取り入れることの有効性を唱えている (pp.17-19)。CLIL の定義については、他の教育法との相違点、類似点を巡り様々な議論がなされている^(注4) が、本稿では、上述の奥野他 (2018) に示されている第二言語習得の立場から検討していくものとする。

2. 2 CLIL の授業設計と指導法

CLIL の 4C の概念を用いた授業設計として、池田 (2007) の「CLIL 授業設計シート」(p.11) がある (図 3)。池田は 4C を教科 (教科書的) 知識と活用知識 (内容)、知識と技能 (言語)、低次思考力と高次思考力 (思考)、共同学習と国際・異文化理解 (協学) の 8 つのスロットに分け、それぞれのスロットに内容を入れると、CLIL の授業設計や授業分析ができるとしている。池田は、具体的な授業方法として「CLIL の 10 大指導法」も提示している (p.11)。紙幅の都合上、本稿での詳説は省略するが、この指導法も授業を行う上で活用できるもので、いわゆるアクティブラーニングで用いられる指導法に類似している。

図 3 CLIL 授業設計シート

Content 内容	Communication 言語	Cognition 思考	Community 協学
Declarative knowledge 教科知識	Language knowledge 言語知識	LOTS 低次思考力	Corporative language 共同学習
Procedural knowledge 活用知識	Language skills 言語技能	HOTS 高次思考力	Global awareness 国際意識

3 日本語教育と CLIL の教育観

言語活動が「それ自体が文化現象の核心であり、人間の精神を最も明確に表現した文化の一つ」(橋本、2014) であるならば、異なる言語を学ぶことで、その言語を使用する文化や社会、精神をより深く知ることができ、異言語の学習を通して豊かな教養を身につけることができる。

山田 (2003) は、日本語教育は「多文化社会での思考・行動への教育であり、現状の社会の在り方を読み解き、人々にとって生きやすい社会を作っていく個人のために必要な資質・

能力の養成」であるとしている。細川（2002）は日本語教育において、知識の伝達で誤解が生じるステレオタイプに対し「個と個の文化」の視点を担うことが重要であるとしている。また、清水（2006）は正当性や妥当性を疑う自己を相対比する視点を持つことが日本事情教育で必要と述べている。

大谷・西口（2019）は、「日本語・グローバル理解演習」のコンセプトと設計指針の中で、大学における上級日本語教育が目指すものについて次のように述べている。

（以下、原文ママ）

様々な言語文化的背景を有する留学生という学習集団での学習において「国際性」や「教養」を身につけるという観点からは、日本の社会や歴史や文化などを単に学習するのではなく、学生集団が有する文化的多様性をも学習のための資源として投入しつつ、文化の相互浸透や拡散の状況などにも注目して、現代社会におけるグローバルな状況についての理解を深めることが重要である。その観点からは、欧州表評議会の唱える副言語主義の下「ヨーロッパ市民」の育成を目指して発展してきた CLIL の思想に近いものを目指しているといえる（p.31,6-17）。

これらの先行研究から、留学生に対する日本語教育は社会の中の個人と、個人にとっての社会の両視点から自らの考えを育み、その地域で生活する「当事者」として考える力を身につける教育であるといえる。この視点は、言語を通して平和な社会の実現に必要な汎用能力を育成することを目的とした CLIL の教育観に通ずるものがある。

さて、四国大学短期大学部の外国人留学生 3 年コースでは、初年次の前期に集中的に日本語教育を実施している。中級程度の学習者を対象に、専門につなげる日本語教育として文字・語彙、文法の言語知識、読解、聴解の言語能力の育成を目的とした学習と並行して、「日本文化・日本事情」「異文化コミュニケーション演習」の科目が設けられている。日本語を使って学び、学びながら日本語力を高めるようプログラムを組んでいるが、本学で行われる日本語教育は、初年次教育、教養教育、キャリア教育の要素を含む、社会の一員として生きるために必要な能力の育成を目指していると考えられる。四国大学における日本語教育は、初年次教育と並行して、社会人になるための基礎力や教養を身につけるための重要な科目として位置づけられているのである。

筆者は長く地域日本語教育に携わってきたこともあり、常に教室の中と外をつなぐ学習を提供することの重要性を意識しながら実践を進めてきた。こういった観点からも、筆者が CLIL の教育方法を自らの授業実践に援用することは極めて自然であったと考える。地域の日本語教室では、学習者から日本語使用場面での戸惑い、日本社会との関わり方に対する疑問など単なる語学学習だけでは解決できない《こころの声》を聴くことが少なくなく、また

学習者にとっては後者のほうが深刻であった。もちろん、個々の多様なニーズや個別の事情に全て応えることはできないが、日本語を学ぶことを通して考えたことを自分の言葉で表現できる日本語力を身につければ、日本語による問題解決力や自己処理能力を高めることができるのではないか。こういった視点を持ちながら行う授業において、教室の外を意識した CLIL の教育方法は意味があるものと考ええる。

以上、日本語教育と CLIL の教育観との関連性について先行研究を概観しながら示した。次節は、日本文化・日本事情を扱う授業について、CLIL の教育観との関連性を示す。

4 「日本文化・日本事情」の授業実践と 4C

4. 1 「日本文化・日本事情」で教える内容

「日本文化・日本事情」を授業でどのように扱うかということについては、地理、伝統文化・芸能、風習、現代社会など様々な観点から捉えることができるが、本実践では、「日本文化・日本事情」を「日本を知る」という大きな括りで捉え、日本の文化・風習を伝統的な事柄から現代社会に見られる事柄まで幅広く授業で扱うこととする。

留学生を対象にした「日本文化・日本事情」の授業を、専門につなげる日本語力の獲得といった観点から考えると、「日本を知る」学習活動を通して日本文化や日本の社会事情を理解すると同時に、言語能力を高めることを目標として授業設計を行う必要がある。日本で生活し、日本で就職を希望する留学生にとって、文化、習慣、社会問題など日本を理解するうえで考えていくべき問題を日本語で学習することが重要である。そのためには、授業で扱う内容は、留学生にとって知的好奇心を持って取り組めるものでなければならない。

4. 2 「日本文化・日本事情」の授業設計と 4C

四国大学で 2018 年度に行った「日本文化・日本事情」の授業実践について、具体例を挙げながら CLIL の概念 4C との関連を示し、本実践の授業設計について分析する。

実践の概要

科 目 名：日本語教育Ⅳ（日本文化・日本事情）

対 象 者：外国人留学生（正規、交換）1 年生 23 名

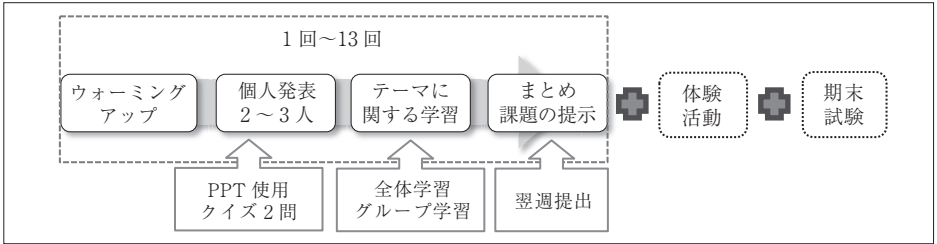
実施時期：2018 年 4 月～同年 8 月

授業回数：15 回（1 回 90 分）＋期末試験

指 導 者：日本語教員 1 名

教 材：教師が作成したスライドを使用

下の図は、授業全体の流れを示したものである。全体の構成は、1回～13回が講義と発表で構成した授業、体験を中心とした授業が2回と期末試験で組み立てている。



まず、ウォーミングアップでは、最近のニュースや季節の話題などを取り上げ教師が紹介する。個人発表は、日本の文化や社会、伝統芸能、ポップカルチャーなど留学生自身が興味関心を持ったトピックを選び、毎回2～3名が発表する。

テーマに関する学習は、全体学習とグループ学習がある。まず、全体学習として、毎回、ひと月ずつ各月の行事や習慣について教師がスライド（資料①）を用いて紹介した^(注5)。グループ学習は、日本の文化を紹介した漫画^(注6)を使って、内容理解、寸劇、意見交流を行った。意見交流では日本でなぜその行事や習慣が大切にされているのか、また、その行事や習慣が現代社会の中で変化しているのか、母文化との相違点は何かなどについて意見を出し合い、異文化理解の機会とした。

まとめと課題については、ワークシートを配布し、次回の授業で提出させた。ワークシートは2部構成となっており、表面には学習した内容と言語事項の振り返りに関する課題を、裏面には学習した内容をさらに発展させる記述式の課題（資料③）を提示した^(注7)。授業後も興味関心を持って課題に取り組めるよう、課題に関連するニュース記事やデータを授業の中で紹介したり（資料②）、授業で使用したスライドを編集してマナバフォリオに掲示したりして、留学生が課題に取り組む際の助けとなるよう工夫を施した。

体験学習は、毎年学習者の興味関心に合わせて決定する。2018年度の授業では、「和食と箸の文化」「正月の遊び」を日本人との交流も交えて実施した。期末試験は学習内容から教師が作成する問題と、個人発表から発表者自身が考えた問題で構成した。

本稿では、上述の授業設計の中から、授業の構成と教材について3回目の授業を例にCLILの4Cとの関連を示す。

【授業の構成と 4C】

3 回目の授業では、CLIL の 4C が次のように位置づけられる。

Content 内容	テーマ 「6 月」 トピック 「梅雨の花嫁」
Communication 言語	梅雨の季節に関することば、表現 結婚式に関する文化や習慣に関することば、表現
Cognition 思考	ワークシート 日本の結婚事情や披露宴について調べて考える
Community 協学	自分が興味や関心を持ったこと、疑問に思ったことについて伝えたり、 他者の意見を聞いたりして学びを深める

【教材】

（資料①）全体学習に使用したスライド

6月 梅雨の季節



てるてるぼうず
あした 天気
してくれ
いつかの夢の
空のように
晴れたら
金の鈴あげよ

「梅雨」から連想する言葉

湿気 カビ

「言語」

「内容」

水分が多いことを表す言葉
湿気が多いことを表す言葉

びしょびしょ じとじと
じっとり びっしょり
しっとり ぐじょぐじょ
しめっぽい びちゃびちゃ
じめじめ

低次思考

日本の結婚式

協学

- 結婚式はどこですか。
- 結婚式を避ける(あまりしない)日があります。いつですか。
- 披露宴(ひろうえん)は何ですか。
- 祝儀袋(しゅうぎぶくろ)は何ですか。
- ご祝儀に不適當な金額はどれですか。
1万円 2万円 3万円 4万円

※（資料①）～（資料③）「内容」「言語」「低次思考」「高次思考」「協学」は 4C との関連を示すために付記したものである。

(資料②) 課題に取り組むための補助資料

2018年5月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	
赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	
7	8	9	10	11	12	13
赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口
14	15	16	17	18	19	20
先勝	仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負
21	22	23	24	25	26	27
仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅
28	29	30	31			
大安	赤口	先勝	友引			

六曜
(ろつき)

未婚化・晩婚化

平均初婚年齢の推移

— 夫
— 妻

国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集2016』をもとに作成

低次思考

なぜ、未婚化・晩婚化が進むのでしょうか。
あなたの国と比べてどうですか。

高次思考

協学

○ 参考図書

『季節で学ぶ日本語』(アルク)

『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化 多田田家が行く!!』(アルク)

『留学生のための日本事情入門』(文理閣)

(資料③) ワークシート

1 6月……水無月

1. 今月の行事

祝日	慣習	イベント

2. 「梅雨」はどんな季節ですか。

「内容」

3. なぜ、「てるてるぼうず」を作るのですか。また、あなたならどんな時に「てるてるぼうず」を吊るしますか。

「言語」

4. 「梅雨」の時期に使う表現をまとめましょう。授業で学んだ言葉以外も書きましょう。

① 「梅雨」から連想する言葉

② 湿気が多いことを表す表現

③ 水分が多いことを表す表現

2 6月……水無月

5. 日本の結婚式について、授業で学んだことを中心にまとめなさい。

.....

低次思考

.....

6. 日本ではなぜ未婚化・晩婚化が進んでいるのでしょうか。あなたの国と比べてどうですか。

.....

高次思考

共有

協学

.....

全体学習で用いたスライド（資料①）には、テーマに関する語彙や行事、習慣、日本人の思想などについての情報を入れ、言語と内容の学習の統合を図った。この言語と内容の学習は、ワークシート（資料③）の左ページに振り返り学習として取り上げている。資料②は、資料③の右ページの課題に取り組むための準備として授業で提示したスライドで、思考力を養うことを主な目的としている。資料①から資料③のそれぞれに 4C との関連を示したが、これを見ると、教材においても CLIL の教育方法を取り入れていることがわかる。

5 まとめ

本実践を、2.2 の池田（2007）授業設計シート（図 3）を用いて授業分析を行うと、次のようになる。

CLIL「日本文化・日本事情」の分析

Content 内容	Communication 言語	Cognition 思考	Community 協学
Declarative knowledge 教科知識	Language knowledge 言語知識	LOTS 低次思考力	Corporative language 共同学習
行事、習慣、文化	行事、習慣、文化等 に関する関連語彙	理解	グループ・クラス
Procedural knowledge 活用知識	Language skills 言語技能	HOTS 高次思考力	Grobal awareness 国際意識
起源、精神、思想	読む・書く・聞く・話す	分析・評価	母文化・他文化との 比較

CLIL は、教科を語学教育の方法により学ぶことでより深い修得を目指し、目標言語を学習手段として使うことにより実践力を伸ばす教育法であり、様々な教育原理・技法を有機的に統合することで高品質な授業を実現する洗練された教育法である（渡部他, 2011）。そして、この教育法を実践するためには、CLIL の有機的に統合された高品質な授業を目指すための教師力の必要性和教師の成長（清水、2016）が求められる。

この教師力については、CLIL を意識しながら授業設計を考えることで育成されるとも考えられる。例えば、CLIL の 4C を意識しながら実践を行うことで、どのように授業を組み立てるのか、どのように授業を振り返り改善していけばよいのかといった点について、明確

な視点を持つことができるであろう。筆者についていえば、CLILを意識する前は内容の教授に注力をし、言語学習については特に明確な視点を持たずに授業設計をしていたが、CLILを意識することで語学学習としての視点も意識しながら授業を進めることができた。また、思考の段階におけるスキaffォールディングのタイミングも意識するようになった。本実践をCLILの概念で分析した結果から、CLILは授業設計においても、また、授業改善においても有効であるとともに、教師にとっても成長できる教育法であるという認識をもった。

6 今後の課題

本実践から、CLILを意識することによる肯定的な結果が認められたが、同時に、筆者にとってCLILを援用した実践は経験が浅く多くの課題が残されている。まず、語学と内容の学習がバランスよく設計されているかどうかの点検が必要である。実際の授業ではcommunicationを意識しながらも、言語知識やスキルの学習にける時間は多くなく、言語使用に偏る傾向がみられた。つまり、語彙や表現、文法などの言語事項よりも内容の学習にける時間のほうが割合が高いということである。また、4Cで重要視される思考力の育成については、評価方法において検討の余地がある。評価について本稿で詳しく触れることができなかったが、「学習の評価」^(注8)と「学習としての評価」^(注9)の両面から捉えるCLILの評価法^(注10)をもとに、評価の観点や方法を見直すことが必要であろう。評価により、学習の成果が可視化でき、学習意欲が高められるような工夫を行うことが重要である。

本稿では、日本語教育における日本文化・日本事情の授業についてCLILの視点から考察を行ったが、内容言語統合型学習は専門教育においても活用できるものである。本学では短期大学部の幼児教育や介護福祉の専門分野で留学生を受け入れているため、CLILの有効性と実用性を示すことは非常に有益であると考ええる。専門教育におけるCLILの教育方法を取り入れた授業設計を検討することも重要であると考ええる。

注

- (1) 池田他(2016、p.15)では、汎用能力として、知識活用力、批判的思考力、問題解力、革新想像力、意思疎通力、協調協働力、社会貢献力、国際感覚力を挙げている。
- (2) CLILでは、「内容」を言語事項や言語構造などが「わかる」知識(「宣言的知識」)と、実際に言語を運用する「できる」知識(「手続きの知識」)に分けて考えている。
- (3) 半沢(2017)は、CLIL(内容言語統合学習)を、外国語学習を意識したものとして捉えら

れることについて、CBI（内容重視指導）が教室内で使用される言語が教室外でも使用される第二言語であることに對し、CLIL は教室外では使用がほばない外国語によって教授がなされるとして相違点を強調する Lasagabaster and Sierra（2010）の主張を取り上げている。（p.33）

(4) 半沢（2017）は、CBI と CLIL の相違点の強調に批判的な立場もあり、これらの用語には様々な解釈が存在することを指摘している。（p.33）

(5) 参考とした教材

石塚京子他（2000）『季節で学ぶ日本語—初中級レベルの総合力が楽しく身に付く』アルク 公益財団法人徳島県国際交流協会（編）『平成 26 年度徳島で暮らす外国人のための日本語副教材副教材とくしまで暮らす 12 か月（行事編）』

(6) 創作集団にはんご（2009）『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化多田家が行く!!』アルクや、新聞の 4 コマ漫画など。

(7) 参考図書：佐々木瑞枝（2009）『クローズアップ日本事情 15 —日本語で学ぶ社会と文化』The Japan Times

(8) 成績をつけるために、教師が主導して行う評価。（奥野他、2018、p.124）

(9) 学習者が自律的に自己評価やピア評価すること自体を学習という考えに基づいている。（奥野他、2018、p.124）

(10) CLIL は 4C を統合的に伸ばすことを意志しているため、複数の評価法が使われている。（奥野他、2018、pp.122-125）

〈参考文献〉

池田真（2017）「言語能力から汎用能力へ—CLIL によるコンピテンシーの育成—」『英語で教科内容や専門を学ぶ—内容重視指導（CBI）、内容言語統合学習（CLIL）と英語による専門科目の指導（EMI）の視点から—』早稲田大学教育総合研究所監修、学文社、pp.5-30

大谷晋也・西口光一（2019）「『日本語・グローバル理解演習』のコンセプトと設計の指針」『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集 23』 pp.29-34

奥野由紀子編著（2018）『CLIL 日本語教育シリーズ日本語教師のための CLIL（内容言語統合型学習）入門』凡人社

澤田田津子（2001）「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」『奈良教育大学紀要人文・社会科学』奈良教育大学

清水順子（2016）「CLIL 理論に基づいた「日本事情」の可能性—伝統文化から現代日本を

- 理解する試み―』『北九州市立大学国際論集14』 pp.147 - 155
- 半沢蛍子 (2017) 「CBI / CLIL / EMI の再定義」『英語で教科内容や専門を学ぶ―内容重視指導 (CBI)、内容言語統合学習 (CLIL) と英語による専門科目の指導 (EMI) の視点から―』早稲田大学教育総合研究所監修、学文社、pp.31 - 45
- 細川英雄 (2002) 「第 1 章ことば・文化・教育―ことばと文化を結ぶ日本語教育をめざして」
細川英雄他著『日本語教師のための知識本シリーズ②ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人社
- 山田泉 (2003) 「第 1 部第 1 章日本語教育の文脈を考える」岡崎洋三・西口光一・山田泉編
著『日本語教師のための知識本シリーズ③人間主義の日本語教育』凡人社
- 渡部良典・池田真・和泉伸一 (2011) 『CLIL (内容言語統合型学習) 上智大学外国語教育の
新たな挑戦第 1 巻原理と方法』上智大学出版

(もとき よしえ・四国大学)